

モデル地域用

【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書】

(モデル地域名

広島市安佐北地域)

I 地域の概要 (平成15年4月現在)

広島市安佐北地域 (モデル校数: 中学校1校, 高等学校1校)

広島市立安佐北中学校

広島市立安佐北高等学校 [全日制課程, 普通科]

II 平成15年度の実践研究の概要

1 推進地域の研究の見通しを踏まえて定めた, モデル地域としての現状及び研究の計画・見通し等

(1) モデル地域における「総合的な学習の時間」の現状と問題点

広島市立安佐北中・高等学校は, 今年度から中高一貫教育校としてスタートしたばかりであり, 中学校には広島市全域から集まった第一学年の生徒のみが在籍しているだけである。

昨年度は, 高等学校の教員が中・高6年間の「総合的な学習の時間」の指導計画を作成し, 中学生の受け入れ準備を進めてきたが, 今年度は, 中学校の教員も揃ったので, 高等学校の教員とともに研究していく体制を整えていきながら, 授業実践における課題を整理し, 今後の指導に生かしていけるよう, 取り組んでいくところである。

地域の自然や伝統文化等に触れる学習内容を中心として年間指導計画が組まれているが, 地域の教材化や学習材の開発, 人材活用の方法等, 課題が多い。

さらに, 高等学校から入学してくる生徒もいるため, 高等学校3年間の指導計画についても別に組み立てていかねばならない。

(2) モデル事業の実践研究について

○2年間を通じた研究の計画・見通し

①解決すべき課題

中高一貫教育校として, 6年間を見通した総合的な学習の時間の計画や活動内容, 指導体制を確立し, 実践していく中で生じる課題について, 次のような視点から研究を進める。

- ・ 中高一貫教育校の発足にあたり, 中・高6年間を見通して設定した「総合的な学習の時間」のねらいと運用上の問題の整理
- ・ 中高一貫教育完成年度までの過渡期における運用上の課題

②そのための具体的取組み・方策

中・高等学校の担当教員が集まり, 研究部会をもつ中でそれぞれの課題について検討し, 今後の研究を進める。

安佐北中・高等学校を指導主事が随時, 学校訪問するなどして研究の進捗や状況を把握し, 研究推進に対して適切な指導, 助言を行ったり, 時には大学教授等を招聘して指導を受けたりして研究の方向性を検討していく。

○モデル事業としての取組みの評価の観点と検証の方法

①研究体制の確立

中・高等学校の教員合同の研究部会を立ち上げ、定期的実施する。
研究内容や進捗状況については、指導主事の学校訪問の際に担当者等から確認を行う。

②中・高6か年を見通した全体計画の作成及び指導計画・評価計画の作成

目標・内容が明確に示してあるか、生徒実態や発達段階に応じた適正な計画になっているか等の観点から検証する。

③研究成果の公開方法

平成15年度末に中間報告書を、平成16年度末に事業実績報告書を作成する。

随時、研究成果を学校のホームページに掲載して一般に公開する。

2 平成15年度の実施概要

(1)研究体制について

中・高の研究部会を定期的実施はしたが、中・高等学校それぞれの教育課題が山積しており、課題についての検討が十分にできなかったと言えない。

中・高等学校それぞれの部会においては、総合的な学習の時間の授業を実施した上で、指導計画の見直しを図り、実態に応じたものとした。

(2)指導計画の検討

① 中学1年

中学校では、後期の実施内容を変更した。10月～12月の間に「広島
の伝統文化に触れる」「身近な地域の産業を知る」の2項目を設定していたが、
「広島
の伝統文化に触れる」のみを実施するように変更した。また、この項目
のまとめを1月に実施した。

② 高等学校1年生

後期の実施内容について、生徒の実態を該当学年で協議する中で、自分の
進路について考える機会が少ないという点が浮かび上がり、在り方生き方
に関する内容をもっと取り入れるように変更した。

(3)外部人材の活用について

6月から、茶道の上田宗簡流の指導に継続して来てもらい、「広島
の伝統文化
に触れる」活動を行っている。

9月には、中学校での自然観察学習において、外部講師を招聘し、「地域
の自然
と人々とのつながりについて」の講話を聞いた。

3 平成15年度の成果及び課題

(1)研究体制について

中・高の研究部会を定期的実施し、課題についての検討をもっと行いたか
ったが、中・高等学校それぞれの教育課題が山積しており、多くの回数をも
てな
かった。

中・高等学校それぞれの部会においては、総合的な学習の時間の授業を実施
した上で、指導計画の見直しを図り、実態に応じたものとした。

現在は校務分掌を中高合同としており、毎時の進行状況は研究部会で確認し
ている。しかし、6か年を見通した教科横断的な取組みを行なうには、分掌を
越えた研究体制もさらに必要ではないかと考えている。

(2)年間指導計画について

当初の計画により、中学校では「ひろしま学」という名称で郷土理解を深める学習活動を展開したが、中・高6か年を通して自分の生き方を考えることが現在の安佐北中・高等学校生には、より必要な内容ではないかということになった。

今後は、この観点を取り入れた内容を組み込むことを検討している。併せて高等学校の内容も再検討していきたい。

(3) アンケートの実施

① 中学1年（別紙資料1）

- ・ 現時点では「総合的な学習の時間」に対しおおむね肯定的にとらえている生徒の割合が多い。特に生徒が印象に残った部分としてあげているのは、学校周辺へのフィールドワーク・茶の湯の体験・発表のための工夫の3点に集まる。前二者は体験的な要素が強い内容であり、後者は「自ら課題を見つけ、解決する」部分である。
- ・ 取組みのなかで、情報機器の活用といった方法も考えられる。
- ・ 6年間にわたる計画については、生徒の成長を見ながら今後改善の余地がある。

② 高等学校1年生（別紙資料2）

- ・ 回答からは「総合的な学習の時間」に対し肯定的な割合が多いが、中学生に比べれば少ない。生徒に受け身的な態度が感じられる点は「総合的な学習の時間」だけではなく他教科でも共通した課題であり、全校的な授業改善の取組みをすすめるなかで解決していきたい。
- ・ 生徒が印象に残った部分としてあげたのは、茶の湯体験とインターネットによる職業検索が多かった。後者は、「総合的な学習の時間」と同時期に大学や専門学校の人を本校に招き話を聞かせる取組みをしており、それとの関連で印象が深まったとも考えられる。

(4) その他

- ・ 次年度の総合的な学習の時間の授業公開実施を踏まえ、今年度は、まず教科の授業研究会を高等学校において実施した。
- ・ 学校行事や教科学習との関連を工夫することが、「総合的な学習の時間」を生かすことにつながる。
- ・ 外部人材の活用においては、計画的に行う必要があるが、講師と学校との日程調整に非常に苦勞した。また、事前に講師に学習のねらいを十分理解してもらう必要があるが、その連携の難しさに苦勞した。

III 平成16年度の実践研究の概要

(1) 見直し視点

- ・ 「総合的な学習の時間」それぞれの取組みのねらいを確認する。
- ・ 中高一貫教育の完成年度（現在の中学校1年生が高等学校3年生となる平成20年度）までの過渡期にあたる安佐北高等学校入学者に対する実施内容の再検討をする。
- ・ 当初、郷土広島を題材に「課題を見つけ、解決する力を養う」ことを目標に取組みをすすめてきた。しかし、現在の生徒の実態を踏まえてより総合的な学習の時間で生徒に身に付けさせたい力を追究するうちに、今後、生徒に在り方生き方を考えさせる取組みが必要になってくるという結論に達したことから、カリキュラムの見直しをすることにした。当初計画の中に、キャリア教育

の観点を取り入れた計画に変更することを考えている。

(2)取組み予定

- ・ 現在、中高6か年にわたるカリキュラムの見直し作業を行なっているところである。(別紙資料3は、6か年の概要である。)
- ・ 平成16年2月 カリキュラム見直し(研究部)
- ・ 平成16年4月 カリキュラム改善の検討(中・高)
さらに中・高の6年間を見通した総合的な学習の時間の在り方について研究した結果を発信する場として、公開授業研究会を実施し、研究成果の普及に努める。

(別紙2)

「総合的な学習の時間」モデル事業広島市安佐北区推進地域
平成15年度取組みの概要, 平成16年度の計画

(1) 平成15年度取組みの概要

実施時期	取組み概要	取組みのねらい等 (事業の評価の観点も含む)
平成15年4月	(モデル校) ・研究部会(中高の教員)	・平成14年度までの準備状況の確認 ・当面の問題点の確認
平成15年6月	「総合的な学習の時間」モデル事業推進地域指定	
平成15年7月	中学校・高等学校別に指導主事と研究計画の確認	
平成15年9月	授業研究(指導主事訪問)	・外部人材の活用についての検討
平成15年9～10月	(モデル校) ・研究部会(中高の教員)	・中学校・高等学校の後期実施内容の検討
平成15年9月	(推進地域単位) 推進地域全体会合 文部科学省担当者による地域訪問 ・モデル事業の趣旨確認	・「総合的な学習の時間」のねらいの確認 ・他校の取組み事例の視察
平成15年11月	高等学校で授業研究会を実施(指導主事訪問)	・授業公開の研究体制づくり
平成16年1月	(モデル校) ・研究部会(中高の教員)	・中学校・高等学校の後期実施内容の再検討(実施状況の確認と修正箇所)の検討
平成16年2月	(モデル校) ・研究部会(中高の教員) ・平成16年度「総合的な学習の時間」のすすめ方検討	・平成15年度分の実施状況の確認 ・キャリア教育の観点を取り入れ, 実施計画の見直し検討(2月～3月)
平成16年2月	中学校・高等学校一緒に指導主事と協議	・平成15年度の研究のまとめと次年度の計画の確認
平成16年3月	中間報告書の提出	

(2) 平成16年度の計画

実施時期	取組み概要	取組みのねらい等 (事業の評価の観点も含む)
平成16年4月	(モデル校) ・平成16年度「総合的な学習の時間」すすめ方確認	・校内における中学・高校相互の取組みの確認 ・当面の問題点の確認
平成16年5月	(モデル校) ・中学校・高等学校合同で指導主事と協議	・初年度の課題の整理と、次年度の計画の確認(最終報告に向けて、研究計画等の確認・修正等) ・研修会のねらいの確認、講師の選定等
平成16年7月 (予定)	(モデル校) ・校内研修会の開催	・講師を招聘し、講演会を開催する ・「総合的な学習の時間」のねらいや意義の再確認と課題意識の明確化を図る
平成16年10月	(モデル校) ・中学校・高等学校別に指導主事と協議	・公開研究会の実施に向けて協議
平成16年11月	(モデル校) ・公開研究会(指導主事訪問)	・指導助言者の招聘 ・取組みの公開 ・実施内容について協議
平成17年2月	(モデル校) ・中学校・高等学校合同で指導主事と協議	・2年間の研究のまとめの確認
平成17年3月	最終報告書の提出	

※ モデル校における中学校・高等学校の実施状況の確認は、随時中・高合同の研究部会で確認する。

研究部会は中高の教員で構成し、毎時の実施内容の検討・確認の他、実施計画の検討を行う。